

## マイケル・サンデルの新刊

『民主政の不満 公共哲学を求めるアメリカ』（金原恭子・小林正弥監訳）

小社より 2010 年 6 月に上巻を刊行予定！

（本書の内容）

### コミュニタリアニズム的共和主義。『リベラリズムと正義の限界』による論争提起後、アメリカ憲政論とその公共哲学を論じた現代の古典。

政治的制度は、それとは独立に育まれる思想を実現するための単なる道具ではない。政治的制度はそれ自身が思想の具現なのである。我々が正義の意味や善き生の本質といった究極的問いに抗いたくとも、我々は何らかの理論を生きているということからは逃れられないのだ。この立場から、アメリカ憲政論とその公共哲学を論じた現代の古典。付録に訳者ら日本人研究者達とサンデル、そしてもう一人のコミュニタリアニズムの中心的理論家であるチャールズ・テイラーとの質疑応答を掲載。

（上巻の目次）

はじめに

#### 第1章 現代リベラリズムの公共哲学

リベラリズムの自由と共和主義の自由  
中立性への志向  
功利主義 対 カント的リベラリズム  
リベラリズムの自己  
カント主義的リベラリズムへの批判  
最小限主義的リベラリズム  
最小主義的リベラリズムへの批判  
中絶論争  
リンカーン－ダグラス論争

#### 第2章 権利と中立的国家

自由と自己統治  
アメリカ立憲主義の出現  
初期共和国における権利章典  
第14修正以降：切り札としての権利  
ハウズ裁判官の反対意見：中立性の示唆  
中立的国家における民主政と権利  
正の優先性の是認

### 第3章 宗教的自由と言論の自由

宗教に対する中立性の探求  
宗教に対する中立性の正当化  
良心の自由 対 選択の自由  
言論の自由—中立性の到来  
猥褻と中立性  
自己統治から自己表現へ  
集団的名誉毀損と人格についての諸観念  
Chaplinsky および Beauharnais  
スコークキーにおけるナチス  
フェミニストのポルノグラフィー反対論

### 第4章 プライバシー権と家族法

親密さと自律  
古いプライバシーから新しいプライバシーへ  
妊娠中絶と最小主義的寛容擁護論  
同性愛および寛容についての主意主義的擁護論  
無責主義的家族法  
婚姻、離婚、そして負荷なき自己  
寛容、自己統治、そして共同体

付録 チャールズ・テイラー及びマイケル・サンデルとの質疑応答

解説／索引

### マイケル・サンデルについて

1953 年生まれ。ハーバード大学政治学教授。オックスフォード大学博士。共同体主義（コミュニタリアニズム）の中心的論者で、国内外で民主主義、リベラリズム、生命倫理、グローバルリズム、正義について講義を行っている。特にその講義については名高く、ハーバード大学では毎回 1000 人以上が受講し、大学創立から 370 年余りの歴史の中で履修者数が過去最高を記録した。

### 共同体主義(コミュニタリアニズム)とは

現代倫理学の主要な学説の一つ。ジョン・ロールズ (1921-2002) らの主張する自由主義（リベラリズム）が個々人の属性としてある人種・家族・性別を軽視していることを批判し、リベラリズムの限界を説く。正義よりも善を優位に置いた。他に共同体主義を主張する思想家にチャールズ・テイラー (1931-) やマイケル・ウォルツァー (1935-) らがいる。

### 共同体主義を知るための小社関連書籍

[『リベラル・コミュニタリアン論争』](#)

(S. ムルホール・A. スウィフト著 谷澤正嗣・飯島昇蔵訳者代表)

[『テイラーのコミュニタリアニズム 自己・共同体・近代』](#) (中野剛充著)

### 現代英米系倫理学の全体像を知るための小社関連書籍

[『ロールズ 正義論とその批判者達』](#)

(Ch. クカサス・Ph. ペティット著 山田八千子・嶋津格訳)

[『正義の論理 公共的価値の規範的社会理論』](#) (土場学・盛山和夫編著)

[『入門・医療倫理 II』](#) (赤林朗編)